

2024 (R6) 年度

<2024 (R6) /4/1 - 2025 (R7) /3/31>

事業報告・活動計算書等

目 次

1 事業報告

- (1) 全 体 1 p
- (2) 山口市市民活動支援センター「さぽらんて」 4 p
- (3) ほっとさるん中市「まちのえき」 20 p
- (4) こども明日花プロジェクト 22 p

2 活動決算

- (1) 決算報告書 33 p
- (2) 各種内訳 45 p

■ 法 人 全 体 事 業 報 告 ■

特定非営利活動法人山口せわやきネットワークは、市民の『まちづくり意識向上』『まちづくり参加』『まちづくり活動展開』のしくみづくりを目指して、平成 15 (2003) 年 6 月 11 日に法人としてスタートし、15 年目となる平成 30 (2018) 年 5 月に税制上の優遇措置を受けられる認定資格を取得しました。

この制度をフルに活用し、令和 6 (2024) 年度は、こども明日花プロジェクトでは、山口県共同募金会の赤い羽根テーマ募金や、物価高の影響を受ける子育て家庭への支援等の協力を呼びかけ、約 800 万円の寄付を集めることができました。

今後も N P O の柔軟性や機動力を生かして、市民を巻き込みながら誰もが幸せに暮らせる地域社会に一層貢献していきたいと考えています。

事業においては、開設 22 年を経た、山口市市民活動支援センターさぽらんての運営（山口市委託）、高齢者等交流施設ほっとさろん中市まちのえきの運営（山口市委託）ともに、コロナ禍以前の通常の状態に戻りました。平成 28 (2016) 年度にスタートしたこども明日花プロジェクトは、物価高等による困窮者支援の W A M 助成（補正予算）に加え、2024 年度から 2 つ目の休眠預金活用事業に取り組み、日本財団子ども第三の居場所（3 年目）など、総事業費が 7,000 万円を超えるました。財源としては、寄付金、委託料や民間助成金など、多様な財源を確保し運営しています。コロナ禍は収束し、こども食堂などは通常開催となり、学習会や居場所事業なども、通常どおり実施しました。

今後も各事業とも、職員や利用者の安全に配慮しながら、円滑な事業実施に努めるとともに、2025 年は法人設立 22 年になり、初心に戻り、「市民参加によるまちづくり」の実現に向けた取り組みを続けていきます。

1 会 議

（1）総会

①通常総会

○日 時：5 月 28 日（火）18:30～20:30

○場 所：山口市市民活動支援センターさぽらんて、オンライン（zoom）

○出席者数：正会員 9 名（内、書面表決出席 4 名、委任状 2 名）、監事 1 名、職員 1 名

○内 容：令和 5 (2023) 年度事業報告・収支決算、監査報告

令和 6 (2024) 年度事業計画・活動予算

（2）理事会

①第 1 回

○日 時：5 月 16 日（木）18:00～19:30

○場 所：山口市市民活動支援センターさぽらんてから zoom（3 名）

○出席者：理事 3 名（児玉代表、高野理事、藤岡理事） 職員 1 名

○内 容：＜協議＞令和 6 (2024) 年度事業計画、活動予算

令和 5 (2023) 年度事業報告、収支決算、総会等

役員報酬の見直しについて

子ども第三の居場所事業・休眠預金活用事業について

②臨時（こども食堂マップの印刷費に係る見積依頼に関するもの）

○日 時：6月17日（月）10：00～10：20
○場 所：山口市市民活動支援センターさぽらんて、zoom
○出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表）、職員欠席
○内容：＜協議＞休眠預金2023事業に係るこども食堂マップの印刷について
(見積依頼先の企業の決定)

③臨時（こども食堂マップの印刷費に係る発注先決定に関するもの）

○日 時：6月25日（火）15：00～15：20
○場 所：山口市市民活動支援センターさぽらんて、zoom
○出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表）、職員欠席
○内容：＜協議＞休眠預金2023事業に係るこども食堂マップの印刷について
(見積合わせによる発注先の決定)

④第2回

○日 時：11月27日（水）17：00～18：00
○場 所：zoom
○出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表）、職員欠席
○内容：＜報告＞・令和6（2024）年度事業経過報告、予算の執行状況について
＜協議＞・賞与支給について、・日本財団第三の居場所に係る申請について

⑤第3回

○日 時：2月17日（月）18：00～19：20
○場 所：山口市市民活動支援センターさぽらんて、zoom
○出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表） 職員1名
○内容：＜報告＞令和6（2024）年度事業経過報告
＜協議＞令和6（2024）年度決算見込み
令和7（2025）年度事業計画及び活動予算
日本財団子ども第三の居場所・大内拠点申請に係る土地について

⑥臨時（日本財団第三の居場所 事業採択に係るもの）

○日 時：3月15日（土）18：00～18：30
○場 所：山口市市民活動支援センターさぽらんて
○出席者：理事3名（高野理事、藤岡理事、児玉代表）、職員欠席
○内容：＜協議＞日本財団第三の居場所の事業採択に係る「不動産（土地）取得」、土地購入に係る「金融機関からの借入」と「役員借入」に係る協議と、臨時総会として、書面表決を実施することについて

（3）監査

○日 時：5月20日（月）10：00～11：00
○場 所：山口市市民活動支援センターさぽらんて

2 事業

（1）山口市市民活動支援センター「さぽらんて」に関する事業 《定款事業①②③》

○令和6年度山口市市民活動支援センター運営事業

◇山口市（協働推進課）委託事業

山口市市民活動支援センター運営事業：委託契約書及び委託仕様書に基づき、「施設管理」「普

及・啓発」「相談」「人材発掘・養成」「事務局支援」「ネットワーク」の6機能をベースとして事業実施。新型コロナの収束に伴い、ほぼ通常利用であったが、引き続き、感染対策にも配慮し、利用者に対して、安心安全の確保を心がけた。

(2) ほっとさろん中市「まちのえき」に関する事業 《定款事業①》

○令和6度高齢者等交流施設運営事業

◇山口市（高齢福祉課）委託事業

高齢者等交流施設運営事業の委託契約書に基づき、運営法人として「休憩機能」「交流機能」「相談機能」「情報機能」を基本機能として設定、「移動支援機能」を付加機能として実施しました。特に本年度は業務改善を図りながら、施設運営の質の向上に努めた。

(3) こども明日花プロジェクトに関する事業《定款事業②③》 ※<>は財源

○学習支援・居場所づくり<山口市委託事業・寄付>

○見守り強化事業<山口市委託事業>

○こども食堂支援センター<山口県委託事業>

○ひとり親世帯への支援（シングルカフェ）<寄付等>

○こども食堂・地域食堂、小郡中・宮野中 学校朝ごはんなど<WAM助成（補正）>

○資金調達 委託、助成金のほか共同募金、企業、一般などからの寄付等

○新型コロナ緊急支援<WAM助成（補正）他>

・ひとり親家庭支援「みんなにエール！弁当」「ごちそうさまプロジェクト」

○休眠預金活用事業通常 2021「県こども食堂ネットワーク強化事業」<休眠預金>

○ 同 2023「居場所のインパクトの可視化」< 同 >

○日本財団 子ども第三の居場所・Waku② Base（わくわくベース）開設・運営<日本財団>

(4) その他の市民活動《定款事業①②》

①ホームページの更新

当法人としてのホームページ <https://yamaguchi-sewayaki.com/>

各事業の紹介と賛助会員募集（カード決済可）

②講師等派遣

特になし

《認定NPO法人山口せわやきネットワーク定款抜粋》

【目的】本会は、市民及び市民団体を応援し、もって、みんなの幸せを考え誰もが住みよいまちづくりを目指した新しい社会システムの構築を図ることにより、社会の公益の増進に寄与することを目的とする。

【事業】本会は目的を達成するため、次の事業を行う

①市民のまちづくり意識向上のしくみづくり事業

②市民のまちづくり参加のしくみづくり事業

③市民のまちづくり活動展開のしくみづくり事業

④その他、本会の目的を達成するために必要な事業

令和6(2024)年度山口市市民活動支援センターさぽらんて事業報告

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

I 委託契約に基づく事業報告

1. 山口市協働推進プランの位置づけ（抜粋）

(1) 目指す協働による地域づくりの姿

地域を思い、人々が集い行動する「地域経営」へ

～共に話し、共に汗をかく～

（将来にわたり安心して暮らし続けることのできる地域社会を目指す）

地域経営の定義

地域全体で地域の将来ビジョンを共有し、地域の課題解決に向けて地域内外の様々な団体が参加、協議し、役割分担しながら、地域の持てる資源（人、もの、金、知恵）を有効活用して地域を動かし、持続的に地域の暮らしを支えていくこと。

(2) 後期推進計画

基本事業 市民活動の育成と支援の強化

推進項目① 市民活動団体への支援の強化

- ・資金調達に向けたクラウドファンディング活用講座や各種助成金制度の情報提供等
- ・市民活動団体の活動に関心を寄せる市民の増加を促すため、市広報誌での活動周知や市立図書館等の公共施設における展示やパンフレットの設置などの広報活動
- ・NPO 法人の新規設立促進、安定的運営の支援
- ・市民活動支援センターを中心に、市民活動団体の人材育成に向けた取り組みを推進

② 市民活動団体と市との連携体制の構築

- ・市民活動団体と市の担当課等との円卓会議、話し合いの場づくり

③ 各団体間の協働の取組に対する支援

- ・市民活動団体や事業者、地域コミュニティ団体等が互いに連携し、幅広い活動の展開に向けた、市民活動支援センターや地域交流センターにおける連携支援の強化
- ・商工団体等を協働し、事業者に向けた市民活動団体の活動の認知度向上と、市民活動団体と事業者の協働による社会の課題解決に向けたマッチング支援

④ 市民活動支援センターの機能強化及び環境整備

- ・地域と市民活動団体とのマッチング
- ・地域住民が市民活動に参画するためのきっかけとなるプログラムの作成
- ・子どもや若者の社会貢献活動への参加促進プログラムの作成
- ・幅広い世代の市民が交流できる市民活動支援センターの環境整備
- ・市民活動支援センターを中心に、高校生や大学生に対して、地域や市民活動等のボランティアのマッチングを行う仕組みづくりの構築

2. 基本目標

個性豊かで活力のある自立した山口市に向けて、

(1) 市民意識の啓発・参画の促進

- ・市民と市民活動団体とのマッチング
- ・HP、SNSによるボランティア情報の充実
- ・若者の社会貢献活動への参加促進のプログラムづくり

(2) 市民活動団体、地域コミュニティ・企業・行政など多様な主体の連携に向けての話し合いの場づくり

- ・テーマ型の円卓会議
- ・企業等との協働促進に向けた意見交換

(3) NPOの活動基盤の強化・自立支援

- ・事務局への伴走支援
- ・資金調達や情報発信の支援
- ・リモート会議の支援 など

1 施設管理

(1) 開館日

水曜日及び年末年始(12/29~1/3)、祝日(土日を除く)を除いた日を基本の開館日としている。

開館日数: 296日 ※7/24(水)・8/24(水)は、お祭りの為開館。

休館日数: 69日 ※8月30日大型台風接近に伴い臨時休館

(2) 開館時間

9:30~18:00

※利用団体の講座などの準備に合わせて、スタッフは9時より出勤

※夏まつり期間中計5日間(水曜含む)は21時半まで開館

※登録団体の時間外利用は柔軟に対応

(3) 各種手続き書類・フォームの配置

①市民活動団体向け

- | | |
|-----------------------|----------------|
| □登録市民活動団体への提供サービスのしおり | □市民活動団体登録・変更用紙 |
| □会議利用報告書 | □プログ反映機能申請書 |
| □印刷機利用カード | □機材借用書(貸出) |
| □持込みイベント申込書・報告書 | □インターネット使用簿 |
| □窓口業務依頼申請書 | □ボランティア募集フォーム |

②内部用

- | | | |
|-----------------------|----------|-----------|
| □相談内容入力フォーム | □機材貸出予約簿 | □拠点利用フォーム |
| □日計表(日別集計表・累計表・月別平均表) | | □職員業務フォーム |

※内部用書類は、kintone アプリを作成し、共有する仕組みを構築

2 普及・啓発及び情報収集・提供

積極的に情報収集を行い、市民活動の意義、社会課題の共有というメッセージ性を大切に発信した。市民目線のカジュアルな情報紙「ええやん新聞」を子育て世代の社会貢献意識の啓発を目的として、市内幼稚園、保育園、小・中学校へ配布のほか、全地域への回覧とした。また、東日本復興関連の活動について動画を作成し YouTube にて配信を行った。その他、団体紹介のミニポスター展示をするなど、来館される方への普及・啓発も充実させ、ホームページへの支援情報、団体情報、講座レポートなど引き続き情報集積にも力を入れた。

講座など事業実施後はホームページ上にレポートを掲載するとともに、「円卓会議」など実施後はかわら版も作成し、事後の広報にも努めた。

(1) 市民活動に関する情報の収集及び整理

- ①山口市内の市民活動情報…団体ごとの個別紹介ミニポスターを作成、掲示。
- ②NPO支援情報…全国の支援情報やNPO関連図書を配置。
- ③市外の市民活動情報…全国の支援センターやNPOの情報を配置。
- ④助成金情報…募集中のおすすめ助成金情報については平置きで設置。
採択率の高い県内募集等は年間スケジュールが立てやすいように一覧カレンダーを作成。
- ⑤ボランティア情報…外から見えやすい入口付近に専用コーナーを設置。
- ⑥中央図書館における市民活動情報ラックの設置…さぼらんて情報の他、団体パンフレット等設置。
- ⑦山口市のNPO法人実態調査…事業・会計報告をもと寄付金収入等の実態を調査。

(2) 広報紙等の発行

1年間の市民活動支援の事業報告や円卓会議などのかわら版を発行し支援内容を伝える他、山口市まちづくりアンケートにある「社会のために何か貢献したい(69.8%)」という市民に対しての啓発紙「ええやん新聞」にも力を入れ、市民と市民活動や地域活動をつなぐ発信を心がけた。編集作業には市民広報スタッフを巻き込み、社会課題の当事者意識を広げる市民目線を大切にした。引き続き、SNSでの発信にも力を入れ、ターゲット毎に Facebook、LINE 公式アカウント、Instagram を使い分け発信した。

①さぼらんて事業情報

○事業方針及び事業一覧『令和6年度さぼらんて主な事業・サービス保存版』

- 【対象】 登録団体・地域交流センター・関係各所
【発行部数】 300部
【形態】 A4サイズ 両面2つ折り

○『令和5年度事業報告ダイジェスト版』

- 【対象】 登録団体・地域交流センター・関係各所
【発行部数】 300部
【形態】 A3サイズ 両面2つ折り

②助成金情報

ア. 助成金スケジュール保存版の発行

主にさぼらんてに登録している任意団体が利用しやすい山口県域の助成金情報を「助成金スケジュール保存版」として助成金コーナーに配置。

イ. LINE 助成金情報配信

助成金情報配信希望の団体に向け、情報を随時配信。スマホからすぐにアクセスできるよう詳細情報へのリンクを貼り、チラシの画像も添付。

【対象】LINE 公式アカウントに登録しているさぼらんて登録団体 103 名へ年間で 5 回配信

ウ. メルマガでの配信

12 月より開始したメルマガ登録をしている団体に向けて、3 回の助成金情報配信を行った。

③ええやん新聞

身近な社会課題とともに、市民活動や市民主体の取り組みを市民目線で発信することで、この層の新しい価値観との出合いや気づきを刺激していく。さらに社会課題のために自分にもできることがあるとえることで、まちづくりへの参加・参画のきっかけを創出し、誰もが心豊かに暮らせる山口を目指す市民を増やすことを目的とする。

【発行内容】

- ・発行回数：年 2 回（10 月 1 日／2 月 1 日）
- ・発行部数：各号 30,000 部
- ・対象：市民（主に 20 代～50 代の子育て世代想定）
- ・配布先：小・中学校、市内公立幼稚園、一部私立幼稚園、山口市内の大学、21 地域交流センター、子育てひろば、山口市全地域回覧、道の駅、山口市内マルキュウ 9 店舗、他

【特集内容・テーマ】

今年度は NY タイムズの記事にあったように、山口市民のあたたかさを再発見してほしいという思いから「あたたかさ溢れる山口市」をテーマに、前期は主に旧山口市内の団体等、後期は中山間地域で活躍する団体や地域おこし協力隊等について発信した。

<30 号> 特集：あたたかさ溢れる山口市～前編～

- ・ええやんピープル 酒向淳子さん（LAWAKU 代表）
- ・ねえねえ知っちょる？山口の支え人（株）レノファ山口、3Expeience、NPO 法人亀山公園を愛し育てる会）
- ・みんなで守ろう！ゲンジボタル（大殿ホタルを守る会）
- ・いろんな人が笑顔になれる居場所に（こんこん山）
- ・さぼらんてってどんなところ？ ・クイズ（LAWAKU） ・編集後記

<31 号> 特集：あたたかさ溢れる山口市～後編～

- ・ええやんピープル 松戸基緒美さん（山口市地域おこし協力隊）
- ・ねえねえ知っちょる？山口の支え人 地域おこし協力隊編（原田尚美さん、中岡佑輔さん、船瀬春香さん）
- ・地域おこし協力隊を支える団体（NPO 法人ほほえみの郷トイトイ）
- ・アースオーブンづくりで生まれた居場所・レシピ「塩麹スープ」（イタヤマノウエン、トーキョーコーヒー山口）
- ・クイズ（NPO 法人ほほえみの郷トイトイ） ・編集後記

【成 果】 市民意識の啓発、市民記者の人材育成を以下のとおり評価

■読者アンケート集計

項目	30号	31号
より身近に市民活動を感じた(理解・関心が高まった)	49.3%	42.7%
社会課題(特集内容)について考えるきっかけ、共感につながった	26.0%	34.5%
情報提供を活用	1.4%	2.9%
はじめの一歩につながる勇気、元気、やる気につながった	9.6%	12.3%
さぼらんての周知につながった	11.0%	0.6%
その他	2.7%	7.0%

■ええやん新聞に寄せられた市民の声

- ・酒向さんのコロナ禍の大変さ、地域との関わり方に共感を抱いた人が多かった。
- ・ホタルのことや亀山公園での昔の思い出に触れ、「懐かしい」という声が多くあがった。
- ・学生が主体で動いている団体があることに驚いている市民も多かった。
- ・「企業が支える」記事への感想が少なかった。
- ・さぼらんての紹介記事により、さぼらんてに行ってみたい、さぼらんてのことがよくわかった、という意見が多く寄せられた。
- ・31号のクイズ応募が過去最高の140に上った。
- ・松戸さんを応援する声が多く、トイトイに興味を持った、トイトイに行ってみたい、頑張ってほしいという声が多かった。
- ・高田さんの「子どもたちが安心して外に出て活躍できる地域にしたい」との思いに反響が大きい
- ・地域おこし協力隊のOB3名を知っているという人が多かった。
- ・地域おこし協力隊について聞いたことがあるが知らなかつたという人が多かった。
- ・地域おこし協力隊制度について知ることができてよかったですという感想が多く寄せられた。
- ・トキヨーコーヒー山口についてもっと知れたらよかったですという意見をいただいた。

■さぼらんて前でのええやん新聞持ち帰り数推移（最新の10号分を配架）

令和4年度	令和5年度	令和6年度
623	705	1143

よく持ち帰られる紙面は、新刊、がん（健康）、子ども食堂。

（3）ホームページ

さぼらんての講座情報、休館等については即時「お知らせ」へ、主催講座等の事業報告を「さぼらんてレポート」で即時発信。ニーズの高い団体ボランティア募集情報については、ホームページの内容を公式LINE、インスタからも拡散。登録団体情報が見られるポータルサイトとしても機能している

■アクセス数は、97,292件（昨対比155%増）実人数23,359人（昨対比104%増）アクティブユーザ一数：64件/日。

①登録団体ブログ反映機能の利用

	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	令和元年度
利用団体数	333	329	322	322	319	311
更新団体数	31	33	46	41	47	42
年間記事数	1,075	976	1585	1,310	1,460	1,561

登録団体（333）の基本データは全て掲載。

②ホームページ等での情報発信

お知らせ：12件 講座等レポート：11件 さぽろぐ（ゾウグ）26件

（4）SNSの活用

①Facebook：さぼらんての近況報告及び団体活動を発信。

②Instagram（ボランティア）：主に市民に向け、ボランティア募集情報を発信。

③Instagram（ええやん）：主に市民に向け、ええやん新聞の裏話などを発信。

④LINE公式アカウント：登録者に向け、主にさぼらんてでのイベント情報を発信。

	Facebook	Instagram（ボランティア）	Instagram（ええやん）	LINE
いいね、フォロワー数	992	667	279	299
年間記事数	18	26	35	71

（5）市役所ロビーなどにおける市民活動出張展示

①市ロビー展示

写真やキャッチコピーで団体の活動内容が一目でわかる「市民活動紹介ポスター」、ええやん新聞取材の裏側などを展示し、幅広い市民に向けて市民活動情報の提供を行った。

【展示内容】
・さぼらんて広報紙（ええやん新聞）・さぼらんて事業報告・事業予定
・登録団体活動紹介ミニポスター（55団体）・団体パンフレット等
・市民活動めくりクイズ展示（4問）

【展示場所】開催日：令和6年3月22日（金）～4月12日（金） 場所：山口市役所ロビー

②山口市立中央図書館

市民活動団体のパンフレットやさぼらんての広報紙を設置し、図書館を活用しているがさぼらんてにはなかなか足を運ばない市民へ市民活動の周知を行った。

【展示内容】
・団体パンフレット等
・ボランティア募集情報
・さぼらんて広報紙（ええやん新聞）・さぼらんて事業報告

【展示場所】山口市立中央図書館 子どもコーナーそばのラック

③ファミリーフェスティバリー（イベントでの展示）

主催の山口商工会議所青年部からの依頼で、展示一式を貸し出した。子育て世代向け「コミュニティ」ブースに出演し、新たな市民層にさぼらんてや市民活動団体を知ってもらう機会となった。

【展示内容】
・団体ミニポスター展示（63団体）
・ボランティア募集情報
・さぼらんて広報紙（ええやん新聞）・さぼらんてリーフレットなど

【展示場所】開催日：令和6年10月6日（日）10時～16時 場所：山口中央公園

④山口市ボランティア連絡協議会交流会（イベントでの展示）

市ボ連交流会来場者が主に高齢者層なので、クイズやシールアンケートなどターゲット層がわかりやすく興味を引くものを案内した。ミニポスター展示も市ボ連に登録のある団体を主とした。

【展示内容】
・団体ミニポスター（22団体）
・ボランティア募集チラシ
・さぼらんて広報紙（ええやん新聞）・さぼらんてリーフレット
・SDGsシールアンケート
・SDGsクイズ、SDGs缶バッジ等

【展示場所】開催日：令和6年11月19日（火）13時～15時半
場所：山口県総合保健会館2F多目的ホール

(6) SDGs 取り組みに関する実態調査

毎年 SDGs に関する認知度は高まり、2024 年は 88.7% と過去最高。その一方で、認知がどれほど関心や行動につながっているかをアンケートとクイズ形式で調査を行った。それぞれの課題をわかりやすいイラストや身近な取り組み例を列挙して提示したことで、日常の行動と結びついたためかほとんどの目標について個人的に行動していることがわかった。「貧困をなくそう」の項目について、「日本でその日の食事に困っている人の数」をただしく把握している大人はほぼおらず、身近な課題として捉えられていなことも伺えた。

(7) ボランティア募集の発信強化

①ホームページで市民に発信

トップページに新情報を 3 件ずつ掲載、表示画面も関連画像を加えて視覚的にわかりやすく、情報も項目ごとに整理して掲載した。また、ホームページのボランティア情報を簡単に印刷できるようにした。

②拠点で市民に発信

さぼらんて入口に「ボランティアコーナー」を設置して、ホームページのボランティア情報を印刷し掲示するとともに、持ち帰りできるようにした。随時募集の情報を保存版として 1 枚にまとめて配布した。

③SNS で発信

ホームページに掲載したボランティア募集情報をさぼらんての SNS (公式 LINE とボランティア情報に特化した Instagram) でも発信し、市民や団体へからも拡散できるようにした。

(8) マスコミ等の活用

報道機関へ広報紙の配布及び事業ごとのプレスリリースを実施。

3 相 談

(1) 相談・問い合わせへの対応

市民の市民活動への参加や市民活動団体の活動充実のために対面・電話・メール、Zoom による相談に応じ、助言を行い、内容によっては、他機関・窓口を紹介しマッチング。

○相 談 件 数 463 件 (来所 227 件、 電話等 236 件)

○問い合わせ件数 212 件 (来所 127 件、 電話等 85 件)

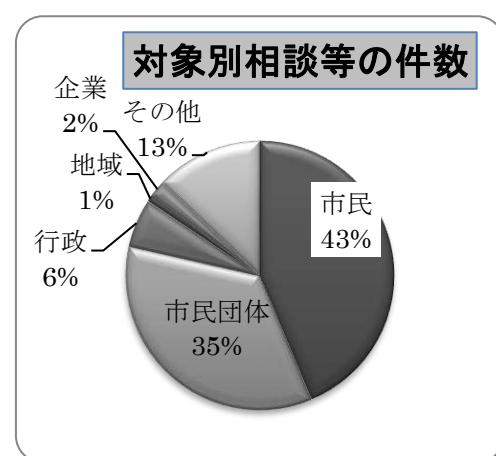
(2) 相談・問い合わせの内容の一覧化

【参考】相談等の内訳

(相談と特記事項がある問合せの一覧を分類したもので、相談数値集計とは一致していません。)

≪対象別≫

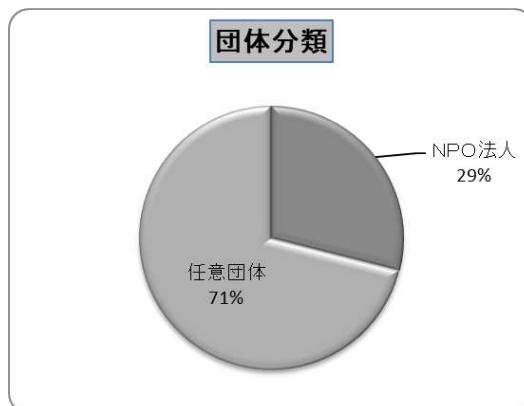
対 象	件 数
市民	295
市民団体	235
行政	39
地域	6
企業	13
その他	87
合 計	675



市民からの相談件数が、3%増加。困り事の相談やさぼらんてに登録している団体についての問い合わせが増えている。また、個人で団体を立ち上げたという相談も増えている。

《団体からの相談分類》

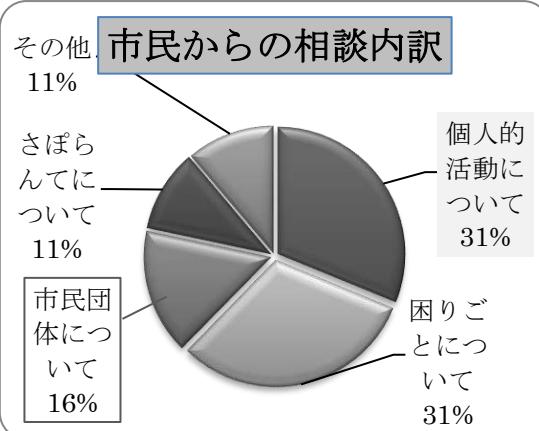
団体分類	内容	件数
NPO法人	運営	20
	活動	32
	その他	16
任意団体	運営	48
	活動	90
	その他	29
合 計	235	235



昨年同様、新規の団体が増え、立ち上げに関してや事業計画の相談等が増加。又、高齢者の多い団体からは、パソコンに掛かる事務支援の相談が増加している。

《市民からの相談等内訳》

内 容	件数
個人的活動について	92
困りごとについて	92
市民団体について	47
さぽらんてについて	31
その他	33
合 計	295



市民活動が認知してきたのか、問い合わせが増加している。中でも、高齢者が活動に参加してみたいという問い合わせが増えている。一方で、困り事の相談では、犬猫の困り事は少し減り、その他の困り事が増えている。

4 人材発掘・養成

無料で活用できるホームページ作成やデザインサイトなど情報発信力強化に関する講座や、団体、地域を対象としたクラウドファンディング講座を実施。全ての講座において、講座レポートをホームページにアップし、団体支援の情報として蓄積していった。

(1) 講座・セミナーの開催

①活動充実講座

	講座・研修	日付	講 師	参加者
1	はじめてのCanva サロン	5月11日(火)	さぽらんてスタッフ	5名
2	Canva のテンプレートで伝わるチラシを作ろう	6月16日(土)	さぽらんてスタッフ	5名
3	Wix のAI機能で楽々 ホームページ作成講座	6月22日(土)	フクイユウ氏	9名
4	Canva のテンプレートで伝わるチラシを作ろう	7月5日(金)	さぽらんてスタッフ	1名
5	クラウドファンディング基本と応用	11月18日(土)	柿沼瑞穂氏 船崎美智子氏	23名
6	活動や魅力を伝えるための情報発信力 UP 講座 「Canva 報告書を作ろう」	2月9日(日)	さぽらんてスタッフ	4名

1. 2. 4. 6

- 現代の情報媒体は、紙からソーシャルネットワークサービスまで多岐に及んでいるため、目的や利用者層に応じて使い分けや発信する情報の精査が必要不可欠となっている。そこで「伝わるデザイン」をテーマに、各媒体の強みや利用者層を意識した広報物の制作をサロン形式で開催した。
3. 登録団体の昨年度のブログ記事更新数は前年に比べ 40% の減少。要因としては、情報発信に意欲的な団体ほど Instagram への発信に移行したことが伺える。Instagram は写真やビジュアルを中心とする発信が多くスマホから気軽に更新ができ、若い世代に向けたプロモーションに適している。一方で、情報量の制約や、検索性の低さ、フォロワー以外への依存度の高さ等のデメリットもあり、これらを補うために、HP 開設を推奨し、より効果的な情報発信を支援。
5. 地域づくりや NPO 活動を支えるためには、多様な資金調達の方法を組み合わせて持続可能な運営を目指すことが重要で、なかでも会費や寄付、事業収入は自己持続性を高めるために特に重要とされる。クラウドファンディングは単に資金調達というだけでなく、キャンペーン活動や新たなチャレンジの呼び起こしを通して、将来の担い手の発掘や地域のファンを増やすのに有効。新たな取り組みやチャレンジプロジェクトで地域をもりあげようという起爆剤としての可能性に期待して地域づくり関係者も対象としたファンドレイジング基礎講座を実施。

② さぼらんてスタッフによる出前講座等

日付	講座・研修	対象	受講者
2024/4/25	山口県立大学ソーシャルワーク演習	山口県立大学社会福祉学部	65 名
2024/5/13	共生とボランティア	山口県立大学社会福祉学部	105 名
2024/5/17	ボランティア入門	山口大学経済学部 1 年	20 名
2024/5/24	ボランティア入門	山口大学教育学部 1 年生	10 名
2024/8/4	パワポで伝えるコツ	日本防災士会山口県支部	12 名
2024/10/15	良成小学校総合学習	小学 4 年生、保護者、教員	187 名
2024/12/9	子どもを取り巻く大人のアップデート大作戦（ファシリテーター）	一般	30 名
2025/2/2	パワポで伝えるコツ	日本防災士会山口県支部	11 名

(2) 市民活動団体等への運営支援

任意団体、NPO 法人への運営支援やコーディネート、これから立ち上げる団体への支援などの継続的な寄り添い支援に力を入れた。

① 運営支援等 18 団体（法人 1 団体、任意団体 17 団体）へ 54 回

内 容	団体数	回数
団体運営支援（組織、会計、マッチング、研修会など）	3 団体	19 回
立ち上げ支援	2 団体	8 回
オンライン講演会開催への支援	1 団体	4 回
チラシ・パンフ・ブログ・HP 開設等情報発信支援	6 団体	11 回
事業計画づくり、助成金申請の支援	5 団体	11 回
活動紹介動画作成	1 団体	1 回

② アワードへの推薦

「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」など 4 つのアワードに 3 団体・1 企業の推薦を行った。

(3) インターンシップ推進事業

山口県インターンシップ推進協議会より以下のとおり受け入れ、実施。

【夏期】

○実施期間:令和 6 年 9 月 26 日～9 月 30 日※水曜除く 5 日間

○参加学生:4 名(山口大学経済学部 3 名、人文学部 1 名)

【春期】

○実施期間:令和 7 年 3 月 3 日～3 月 8 日※水曜除く 5 日間

○参加学生:2 名(宇部フロンティア短期大学 1 名、山口県立大学国際創造学科 1 名)

○協力団体:NPO 法人あっと、親子で防災@みやの、こども明日花プロジェクト

(4) 山口芸術短期大学 PBL 協力

近年、山口県内の多くの大学では、地元企業や行政、地域活動、市民活動と連携して課題解決型学習(PBL)への取り組みが進められており、山口芸術短期大学と山口市が包括連携に関する協定を結んでいることから、数年前より大学からの要請を受けて地域づくりへの参画をテーマに市民活動を実践の場として提供するとともに、団体マッチングを行っている。今年度は、榎野川再発見ウォークの会・きらめき財団主催のイベント「第 1 回 501 再発見！榎野川ウォーク」の実行委員会として、山口芸術短期大学デザイン表現学科 2 年生 14 名が参加。

(5) 高校生・大学生リーダー育成事業

山口市内の NPO・市民活動団体の活動を踏まえ、15 名の高校生を 5 つのテーマに分けチームで PBL (Project Based Learning) を実施。各チームに 2～3 名の大学生メンター配置し、協力団体の指導を得ながら半年をかけ身近な課題解決に取り組んだ。(全 8 回)

※この事業は、さぼらんて職員(2 名)を含む任意団体山口トップランナープロジェクトとして公益財団法人マツダ財団より助成を受けて実施。

【実施内容】

1) 講師:黒川康生氏 (PBL 講座) / 大草快貴 (プレゼン講座)

2) 受講者

●高校生 15 名 (5 チーム)

山口高等学校 (7 名) / 山口松風館高等学校 (7 名) / 鴻城高等学校 (1 名)

●大学生メンター 12 名 山口大学 (2 名) / 山口県立大学 (10 名)

3) 協力団体

① NPO 法人フードバンク山口 (食品ロスと生活困窮者への食支援活動)

② 一般社団法人 Happy Education (不登校児の居場所・学び・体験活動)

③ かぎしっぽの会 (地域猫の殺処分ゼロ活動)

④ 青年海外協力隊 OB 会 (外国ルーツの子どもの日本語教室)

⑤ 小郡みんな食堂実行委員会 (つながりを目的とした地域食堂)

4) プログラム

時間:10:00～12:00※ランチミーティング開催日は 13:00 まで

場所:さぼらんて

① 6 月 9 日(日):基礎講座①

② 6 月 30 日(日):基礎講座② / ランチミーティング

- ③ 7月7日(日)：プレゼン講座
- ④ 7月28日(日)：NPO交流会
- ⑤ 8月4日(日)：応用編
- ⑥ 9月1日(日)：進捗共有
- ⑦ 10月6日(日)：中間報告／ランチミーティング
- ⑧ 11月10日(日)：成果報告会／終了証授与

5) その他

5 チーム中1チームが「やまぐち探求サミット」へ出場

- ・日時：令和7年2月2日(日)
- ・場所：山口県セミナーパーク
- ・参加：1チーム3名
- ・発表内容：「多様な子どもの学びをみつめて」

5 協働促進・ネットワークに関する業務

(1) 円卓会議

社会課題を解決するために、その社会課題やテーマに関わる団体、企業、行政、個人が集まり、つながり、フラットに話し合える場「円卓会議」を企画・開催した。

【円卓テーマ】「ひとり親家庭の支援に向けて」

情報提供者：.Style 小西凡子さん

参加機関：ドットスタイル、一般社団法人 HappyEducation、山口県こども政策課、山口市子育て保健課、山口市教育委員会社会教育課、母子父子寡婦センター、母子寡婦連合会、こども明日花プロジェクト、山口市社会福祉協議会、母子生活支援施設沙羅の木、パーソナル・サポートセンター、山口市協働推進課、山口せわやきネットワーク

① 就学前の子どもを持つひとり親家庭支援について

日時：2024年10月22日（火）14時～16時

参加者：14名

② 学齢期の子どもを持つひとり親家庭支援について

日時：2024年11月25日（月）14時～16時

参加者：14名

③ 山口市でできそうなひとり親支援事業案検討会

日時：2024年12月19日（月）14時～16時

参加者：13名

毎回レポートとしてさばらんてホームページで発信し、全3回終了後、かわら版を500部作成・配布した。

(2) 企業×NPOのつながりづくりプロジェクト「支え人。」

プロジェクトスタートから11年。スタート時、3法人が9社と調印するも、団体の解散や、個人事業の廃業等に伴い、現在2法人4社。さらに今年度いっぱい1社が退会となった。寄付金贈呈式は各企業店舗で開催され、団体からの報告・お礼と、企業から応援メッセージを賜る顔の見える関係づくりに努めている。

【令和 6 年度実績】

寄 付 金 総 額 46,555 円

11 年間の寄付総額 1,802,224 円

エントリー NPO 法人：①認定 NPO 法人こどもステーション山口

②NPO 法人あっと

協 力 企 業：① (株) メルシー (令和 6 年度をもって退会)

② 木のおもちゃ専門店 リンドヴルム

③ ポーラ Sweet

④ (株) モリイケ

その他の連携：NPO 法人山口せわやきネットワーク（こども明日花プロジェクト）への「こどもの未来応援企業」提携企業 3 社、自動販売機設置企業 4 社

（3）複数団体によるコラボイベントの企画

商店街における「山口市ちょうちん祭り」を盛り上げ、かつ効果的に活動 PR と活動資金の調達が行えるようコラボによる「チャリティ屋台」を提案し、登録団体へ参加を呼びかけた。併せて、ネットワークづくりにつながるようオリエンテーションも実施。

■参加団体：13 団体（のべ 120 名）

■資金調達合計：387,513 円

（4）その他のネットワーク

① 関係各所との連携に向けて、以下のとおり出前講座の実施および関係会議等に参加。

日付	会議名	主 催	場 所	職員参加
2024/4/15	NPO 支援財団研究会第 8 回 WEB シンポジウム（事例紹介）	NPO 支援財団研究会	オンライン	1 名
2024/5/30	令和 6 年度第 1 回県民活動ネットワーク会議	やまぐち県民活動支援センター	パルトピア	1 名
2024/6/6	県民活動リレーイベント第 1 回協議会	きらめき財団	大歳地域交流センター	2 名
2024/6/11	マツダ財団市民活動支援交流会	公益財団法人マツダ財団	オンライン	1 名
2024/6/15	プロボノ交流会 2024 in 山口	やまぐち県民ネット 21	オンライン	1 名
2024/6/20	やない市民活動センター視察受入れ	さぽらんて	さぽらんて	3 名
2024/6/24	しゅうなんセンター視察受入れ	さぽらんて	さぽらんて	3 名
2024/7/7	きららでキラリ！オンライン説明会	やまぐち県民活動促進実行委員会	オンライン	1 名
2024/9/29	山口街中職場体験受け入れ	山口市産業振興連合会	さぽらんて	1 名
2024/10/3	ボランティア運営研修（コーディネート）	やまぐち県民活動支援センター	山口芸術短期大学	3 名
2024/10/6	きららでキラリ！県民つながるフェスタ交流・説明会	やまぐち県民活動促進実行委員会	パルトピア	2 名

2024/10/26	きららでキラリ！県民つながるフェスタ	やまぐち県民活動促進実行委員会	山口きらら博記念公園	3名
2024/10/29	オンライン防災カフェ 2024	やまぐち県民活動支援センター	オンライン	1名
2024/11/19	令和6年度 山口市ボランティア連絡協議会交流会・講演会	山口市社会福祉協議会	山口県総合保健会館	2名
2024/12/17	地域福祉推進委員会 地域福祉課題提言部会（登壇）	山口県社会福祉協議会	山口県社協	2名
2024/12/23	令和6年度第2回県民活動ネットワーク会議	やまぐち県民活動支援センター	パルトピア	2名
2025/2/14	地域づくりのキッカケ見つけ隊 21	山口市	カリエンテ	3名
2025/2/27	阿武町社会福祉協議会視察視察受け入れ	さぽらんて	さぽらんて	3名
2025/3/18	佐賀市市民活動プラザ視察受け入れ	さぽらんて	さぽらんて	3名
2025/3/26	県民活動支援センター運営委員会	やまぐち県民活動支援センター	パルトピア山口	1名

【審議会等】

日付	会議名	主 催	場 所	参加者
2022/7/18	「チャレンジやまぐち！地域貢献賞」選考委員会	山口県	山口県庁	1名
2024/8/8	山口県県民活動審議委員会	山口県	山口県庁	1名
2025/3/26	県民活動支援センター運営委員会	山口県	パルトピア	1名

6 市民活動団体事務局支援

専属の職員や拠点を持たない団体が活動しやすいように支援。

（1）市民活動団体登録制度の運用

○令和6年度末 登録団体数：333団体（前年度329団体）
 < NPO法人43（内認定NPO法人4）団体、
 その他の法人11団体、任意団体280団体>
 新規登録団体数：16団体
 解散団体数：12団体

（2）登録団体へのサービス提供

①場の利用による支援

・団体B O X利用：要望のあった団体に、その都度設置した。

利用団体数：24団体

・会議室の提供：利用件数：466件

利用団体数：50団体

・市民活動団体持ち込みイベントへの提供

利用件数：141件（延べ利用日数192日）

利用団体数：24団体

・印刷機材の提供：利用件数：157件

利用団体数：37団体

② 事務局機能の代行による支援

郵送物等の受け取り、イベント・講座等の「連絡取次窓口」として、市民活動団体事務局機能を一部代行。イベント・講座等の「連絡取次窓口」利用件数：10件

③ 広報支援

○「さぽらんての広報紙」発送時の同封サービス

「さぽらんての広報紙」送付時に、登録市民活動団体の情報紙やチラシを同封して送付した。

なお、送付作業への協力を得ることで、協力団体同士の情報交換を併せて実施。

利用団体数：10団体（偶数月発送作業）

○マスコミ等への広報活動の助言

市民活動団体行事等において、随時、マスコミ等への記者配布等の助言を行った。

○ホームページの団体行事カレンダーへの掲載

持ち込まれた団体のイベントチラシなどの情報は全て、ホームページの団体行事に反映した。

③ 機材貸出による支援

貸出機材件数：375件

□ワイヤレスマイク一式	11件	□マルチプロジェクター	30件
□炊飯器	5件	□スクリーン	6件
□イ　ー　ゼ　ル	85件	□延長コード	26件
□缶バッヂマシーン	4件	□HDMI ケーブル	12件
□モ　ニ　タ　ー	37件	□台　　車	64件
□屋　　台	2件	□そ　　の　他	93件

7 その他の事業

（1）館内募金箱の設置

東日本復興支援のため、さぽらんてでは寄付やカンパを募り、山口市内から東日本復興支援活動をする市民活動団体へと配分しました。

寄付金総額 25,707円

寄付先 ①りす会山口

②山口東北県人会

③山口災害救援

上記団体に8,000円ずつの配分

その他、団体設置の募金箱は以下のとおり

- ① ブルーライトやまぐち
- ② 一般財団法人 Happy Education
- ③ ポポメリー
- ④ かぎしっぽの会
- ⑤ いのちの居場所
- ⑥ さくら猫やまぐち
- ⑦ リレー・フォー・ライフ
- ⑧ Kikkake
- ⑨ こども明日花プロジェクト

II 運 営

1 職員体制

職員の内外研修により市民活動のみならず、地域づくりへの支援力の向上に努めた。また、感染対策を徹底した施設管理、利用者保護に努めた。通常時は、ローテーション勤務により平日については4～6名、休祭日については2～3名の職員配置を確保し、車の乗り入れ可能な開館1時間前の9時から対応した。

○事業スタッフ5名（常勤4名、非常勤1名）

○経理スタッフ1名

○広報スタッフ3名

○学生スタッフ6名

*ボランティアコーディネーション力3級取得者2名配置<NP0法人日本ボランティアコーディネーター協会認定>

*NP0法人事務力検定初級1名配置

2 意見聴取

「さぽらんて」への意見・要望を、下記のとおり隨時聴取し、運営の参考とした。

○市民活動団体来所時及び相談対応時においての意見の聞き取り。

○講座開催時の参加者アンケートによる把握。

○ええやん新聞における「モニタースタッフへのヒアリング」、「読者アンケート」を実施し、これまで市民活動と関わりのなかった人の意見の聞き取り。

○団体訪問や取材時における団体運営課題などの聞き取り。

○インターンシップ時にもワークを行い、幅広い世代の人と社会課題意識の掘り下げ。

3 定例連絡会等

「さぽらんて」設置者の山口市協働推進課と運営NP0職員と、よりよい市民活動支援に向けて、連絡会を実施。事業実施においてのスムーズな連携、市民活動支援の意義の共有などができた。

【協働推進課情報交換会等】

日付	内 容	担当課	さぽらんて
2024/5/23	年間事業計画等の共有	2名	5名
2024/7/22	事業の進捗について	1名	3名
2024/8/29	事業の進捗について	2名	4名
2024/10/19	事業の進捗について	2名	4名
2024/12/20	事業の進捗について	1名	4名
2025/1/23	事業の進捗について	2名	3名
2025/3/11	事業の進捗・次年度事業について	2名	5名

4 職員研修

中間支援力向上のために、内外多数の講座・研修に参加し、参加後は職員間で内容を共有する時間を持った。

研修等一覧

① 運営支援のための講座・研修等 (25回のべ36名参加)

日時	内 容	主催	場所	参加者
2024/4/11	インボイス本番でわかった経理上の問題点と最新情報のアップデート	PCA	オンライン	1名
2024/4/25	【給与担当者様向け】定額減税解説セミナー	PCA	オンライン	1名
2024/6/25	初心者向けセミナー はじめてのSensGrid	(株)構造計画研究所	Zoom ウェビナー	2名
2024/7/4	メルマガ交流会、山陽小野田視察、宇部視察	県センター	山陽小野田市民活動支援センター	2名
2024/7/9	これからの中間支援を考えるシンポジウム	中間支援	YouTube ライブ	1名
2024/7/23	社会保険事務講習会	社会保険協会	山口健康づくりセンター	1名
2024/7/25	チラシを作ろう！	やまぐち県民活動支援センター	山口県民活動支援センター	1名
2024/8/2	メルマガ研修	県センター	県センター	2名
2024/9/19	学びの教室会計編～日々の会計業務をマスターしよう～	やまぐち県民活動支援センター	Zoom	1名
2024/10/17	社労士が解説！時間外労働の上限規制適用で間違いやすいポイントと残業削減の知恵	ピー・シー・エー	オンライン	1名
2024/12/5	社会保険制度・年金ライフセミナー	社会保険協会	労福協会館	1名
2024/12/23	災害支援に関する協働の取り組み方	県民ネット21	パルトピア	2名
2025/1/24	被災者支援における法制度・人権を考える	一般社団法人ほっと岡山	Zoom	2名
2025/2/15	地方の可能性を見つけて未来をつくるオンラインセミナー①	NPO 法人ほほえみの郷トイトイ	Zoom	1名
2025/2/20	スキルアップ研修～Google サイトを使ってホームページを作つてみよう～	やまぐち県民活動支援センター	やまぐち県民活動支援センター	2名
2025/2/25	地方の可能性を見つけて未来をつくるオンラインセミナー②	NPO 法人ほほえみの郷トイトイ	Zoom	1名
2025/2/27	令和6年度「小さな拠点」づくり全国フォーラム	内閣府地方創生推進事務局	オンライン	3名
2025/2/27	Gmail 持ってる？イベント申込フォーム作れるよ！	県センター	パルトピア	1名
2025/3/2	地方の可能性を見つけて未来をつくるオンラインセミナー③	NPO 法人ほほえみの郷トイトイ	Zoom	1名
2025/3/8	地方の可能性を見つけて未来をつくるオンラインセミナー④	NPO 法人ほほえみの郷トイトイ	Zoom	1名
2025/3/13	スキルアップ研修 動画作成を学ぼう～Canva で作つてみよう～	やまぐち県民活動支援センター	パルトピア山口	2名
2025/3/14	協働を一步進めるためのノウハウ習得セミナー	NPO 法人やまぐち県民ネット21	オンライン	1名
2025/3/17	情報共有会議「協働で問題解決を図つてみよう」	県センター	パルトピア	3名
2025/3/18	2024年度 組織と事業の見直しセミナー	やまぐち県民活動支援センター	県民活動支援センター	3名
2025/3/22	地方の可能性を見つけて未来をつくるオンラインセミナー最終回	NPO 法人ほほえみの郷トイトイ	トイトイ	1名

～ほっとさろん中市「まちのえき」～

事業報告

平成15年4月20日、市民の交流の場となる施設【ほっとさろん中市「まちのえき」】が山口市中心商店街：中市商店街に設置され、高齢者等交流をテーマとした事業が始まりました。

平成15～18年度は高齢者を中心とした幅広い世代交流をテーマに、平成19～24年度は「ひと」と「まち」をつなぐ」をテーマに、平成25～令和元年度は高齢者同士の交流をテーマに、令和2年度からはフリーマーケットも織り交ぜた重層的な交流をテーマにしつつ、特に本年度は業務改善を図りながら、施設運営の質の向上に努めました。

1 施設管理・運営

高齢者から子どもまで、障がいの有無に関係なく、誰もが気軽に交流できるサロンを商店街に設置し、管理・運営を行いました。

- 開館時間 10：00～16：00
- 休館日 水曜日・日曜日・祝日・盆・年末年始
- 施設及び備品類の管理
- 利用者統計 令和6年度利用状況参照

2 休憩・交流

“ほっ”と一息つける雰囲気の提供を心がけ、利用される方同士の交流の場や機会を提供しました。

- お茶の提供
- フリーマーケット in まちのえき
人と人とのつながりづくりを目指して、フリーマーケットを開催しました。
(施設開館日の10：00～16：00)

3 健康相談（まちの保健室）

プライバシーに配慮した個室に保健師又は助産師、看護師が常駐（1日1人の当番制）し、血圧測定を行いました。

- (1) 開室日時 10：00～16：00（休室時間12：00～13：00）
※水曜日、土曜日、日曜日、祝日、お盆、年末年始は閉室。
- (2) 会議
対応方法等を共有するための連絡会議を開催しました（年3回）。
- (3) 利用状況 令和6年度利用状況参照

4 情 報

- (1) 「まちのえき」 リーフレット令和5年度版の発行（825部）
- (2) 店頭に情報コーナー設置
- (3) 情報誌の発行
 - まちのえきだより（月1回 各400部）
「まちのえき」からのお知らせ、皆さんから教えていただいた情報、スタッフのつぶやきなどを掲載しました。
- (4) 情報誌の発送
 - 希望者に「まちのえき」の情報誌を発送しました（登録7名）。
- (5) SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）での発信
 - 「まちのえき」の状況や商店街の様子、スタッフの日常などを発信しました。
 - インスタグラム
https://www.instagram.com/machinoeki_yamaguchi/

5 移動機器の貸出

- 貸出日時 施設開館日の10:00～16:00
- 貸出状況
 - ・車いす0回
 - ・シルバーカー2回

6 そ の 他

- 山口市「赤ちゃんの駅」に参加
 - ・4月1日～3月31日

＜令和6年度＞ ほっとさるん中市「まちのえき」 利用状況

(単位:人)

	開館日	利用者数	1日平均	イベント等	まちの保健室	1日平均	タウンモビリティ		
							車いす	シルバーカー	ベビーカー
H15～19年度	1,469.5	73,607	50	5,831	23,869	16	198	—	332
H20～24年度	1,332.5	78,992	59	8,969	27,870	21	228	50	377
平成25年度	267	21,759	81	2,262	6,498	24	32	29	32
平成26年度	268	23,592	88	2,769	5,829	22	20	31	34
平成27年度	264	23,869	90	2,565	5,153	21	13	29	30
平成28年度	267	20,275	76	2,577	4,705	19	11	16	22
平成29年度	265	19,693	74	2,629	3,683	15	11	11	11
平成30年度	239	17,694	74	2,642	3,547	16	6	6	4
令和元年度	224	17,176	77	2,535	3,397	16	8	3	3
令和2年度	215	13,297	62	—	2,362	12	10	2	0
令和3年度	222	15,603	70	—	1,651	10	3	4	0
令和4年度	233	16,736	72	—	1,367	10	3	1	—
令和5年度	242	17,659	73	—	1,225	6	5	6	—
令和6年度	4月	21	1,899	90	—	95	6	0	0
	5月	19	1,679	88	—	98	6	0	0
	6月	21	1,798	86	—	99	6	0	0
	7月	21	1,469	70	—	88	5	0	1
	8月	19	1,364	72	—	80	6	0	0
	9月	19	1,586	83	—	99	7	0	0
	10月	21	2,061	98	—	105	6	0	0
	11月	20	2,153	108	—	83	5	0	0
	12月	20	1,897	95	—	100	6	0	1
	1月	19	1,533	81	—	83	6	0	0
	2月	18	1,544	86	—	68	5	0	0
	3月	21	1,857	88	—	84	5	0	0
合計		239	20,840	87	—	1,082	6	0	2
合計		5505.0	363,133	66	32,779	91,013	18	543	184
									845

令和6年度 こども明日花プロジェクト 事業報告（案）

I 経過・内容

「子どもの貧困問題」の解決に向け、2016年5月14日発足式で活動開始を発表した「こども明日花プロジェクト」の活動第9事業年度は、コロナ禍も落ち着き、活動は以前の状態に戻ってきたものの、最近の電気代や食品等の値上がりなどの物価高に加えて、昨年8月以降、お米の需給が逼迫し、大幅に値上がりしている中、ひとり親家庭などの家計への影響は大きく、食支援へのニーズが高まっています。

依然として、新型コロナの感染はあるものの、活動自体は以前のように、学習支援や居場所づくりは、一緒に勉強したり、遊んで、一緒にご飯を食べており、こども食堂も、通常開催（会食）となり、「みんなで一緒に食べる」これまでの風景が戻ってきました。

一方、ひとり親家庭などの家計の厳しさは、実感としてコロナ禍以上と思われ、数年前からの相次ぐ値上げに加えて、昨年からのお米の値上げにより「親がお米を食べずに我慢する」といった話も聞くようになりました。こども明日花プロジェクトは、これまでと同様に「みんなにエール！弁当」や「ごちそうさまプロジェクト」、さらに、「フードパントリー」など継続実施し、ひとり親家庭等の「食」を応援しました。

また、昨年度も、休眠預金など、各種の民間助成金を活用して、県内のこども食堂などと連携した県ネットワーク事業として「県下一斎フードパントリー」などを継続して実施しました。また、助成の最終年度となった日本財団による「子ども第三の居場所・萩拠点」は地元関係機関などの協力をいただき、居場所や学習支援、こども食堂などの事業を実施しましたが、令和7年度は萩市の事業化（予算化）は実現せず、当面、様々な財源を確保し、事業を継続していきます。

5年間続いた、県委託事業「こども食堂サポート事業」は、6年度から「地域子どもの居場所づくり体制強化事業」となり、こども家庭庁が設置され、「子どもの居場所」づくりを重点に取り組むことに対応し、山口県も、市町ごとに「子どもの居場所づくり」に取り組む体制づくりを進めることとしたので、連携して取り組みました。

活動当初から掲げている「ファンドレイジング～行政に頼らない資金調達」についても、山口県共同募金会「赤い羽根テーマ募金」や「子どもの未来応援企業」様からの継続寄付、マンスリーサポーターの皆様からの御寄付などにより、活動を支えていただいたおりますことに、改めて感謝申し上げます。引き続き、多くの企業や個人の皆さんからの御期待に応えるため、困難を抱える家庭やこどもたちを包括的に支える仕組みづくりに取り組みます。こども家庭庁が掲げる「こどもまんなか社会」実現を目指し、行政や企業、地域などを巻き込み、一体となって、取組を進めてまいります。

当プロジェクトのこれまでの実績とネットワークを基盤とし、取組の加速化や強化に努めるとともに、新しい課題にもチャレンジしていきます。そのためには、引き続き、事業の言語化と丁寧なコミュニケーションを図り、理解と支援を広げ、活動の充実強化を図ってまいります。

○プロジェクト名 「こども明日花プロジェクト」

○ビジョン

どんな環境に生まれ育っても、子どもが明日（あす）に希望を持てる社会を実現する

○ミッション

1. 子どもたちが安心して過ごせる居場所と学びの環境を提供し、自立を支援する
2. 身近な大人が子どもたちを見守り、受け止める地域をつくる
3. 生活困窮など困難を抱える家庭が地域で孤立しないよう見守り、支える

○事業内容

- ・「学習支援」無料学習会（食事付き）、リモート学習会
- ・「生活支援」食事支援（こども食堂）、フードパントリー（食品配布）
- ・「居場所づくり」課題を抱える子どもたちが安心できる居場所づくり
- ・普及啓発・人材育成などの中間支援、地域の包括支援の体制づくり
- ・生活困窮家庭を支える食料等の提供など

II 事業内容

1. 学習支援

① 無料学習会

毎週土曜日、午前中、主にひとり親世帯や就学援助対象世帯などの中学生を対象に無料学習会（昼食付）を山口市内 5 カ所 + 1 カ所（阿知須：食事なし）で実施。

会場	期間	回数	延べ 参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
湯田	2024.4 ~2025.3	41 回	298 人	130 人	159 人	289 人
平川	建替え工事で休止	回	人	人	人	人
小郡	2024.4 ~2025.3	41 回	222 人	122 人	99 人	221 人
大内	2024.4 ~2025.3	46 回	345 人	130 人	68 人	198 人
宮野	2024.4 ~2025.3	36 回	148 人	96 人	39 人	135 人
	4 カ所 計	164 回	1,013 人	480 人	365 人	843 人
阿知須	2024.4 ~2025.3	43 回	34 人	※学習教室スマイルと合同		

※阿知須は 2022 年 4 月から地元団体と合同実施。

※大内会場は、土曜午後は部活等で参加しにくいとの意見があり、2022 年 9 月から木曜夕方に変更（夕食準備）、小郡会場も 2024 年 4 月から変更し、参加者も増加した。

② リモート学習会

家が遠いなどの理由で学習会に参加できない中学 3 年生にタブレットと無線ルーター（必要な家庭）を貸し出し、毎週金曜 19~21 時、ボランティアによるリモート学習会を実施（参加者 3 人、5 月 10 日から 2 月 28 日まで、のべ 39 回 93 人参加）。

2. 居場所づくり事業（山口市委託事業）

主にひとり親世帯の子どもを対象とした「子どもの生活・学習支援事業（上記の学習支援を含む）」を受託、毎週土曜（午後 3 ~ 7 時）、生活支援・食事支援（夕食）

会場	期間	回数	延べ参加者数	ボランティア		
				学習	調理	合計
湯田	2024.4~2025.3	42 回	318 人	238 人	154 人	392 人

※「夏のイベント・関門海峡ツアー（門司港レトロ・海響館）」2024年8月3日（土）

様々な「体験」の場を提供するため、毎年、海や山などにバスツアーを実施。、

今年は門司港レトロや海響館訪問、夏休みの思い出づくりを行った。参加は38人。

※オープン・ハウス（なのはなハウス）

平日、毎週木曜（のべ22回）と、夏休み期間中（のべ7回）、なのはなハウスを開放し、不登校の中学生の受入や、夏休みで家では暑くて勉強できないなどの子どもたちが利用し、昼食等も提供した。夏休み期間中は7日のべ113人が利用。

※「新入学記念品」プレゼント

学習支援・居場所づくりに参加の子どもたちや、市内の主任児童委員などから寄せられた情報に基づき、小学校 人、中学校 人、高校 人に記念品贈呈。

3. 子どもの見守り強化事業（山口市委託事業）

コロナ禍にあって、孤立・困窮する子育て家庭等を弁当配布等で支えた全国の子ども食堂などの活動が評価され、2020年度国の第3次補正予算で「こども食堂等が要保護児童対策地域協議会の支援家庭を訪問、状況把握や食事提供（弁当）など」を行う「見守り強化事業」が開始。山口市は2020年10月から始まり、当法人も委託を受け、引き続き、各地域の見守り支援員の方々の協力を得て、見守りと弁当配布等を実施。

4. ひとり親家庭への支援（シングルカフェ）

ひとり親家庭の保護者グループ.style（ドットスタイル）との共催で、当事者同士が支援に関する情報共有や意見交換を継続実施。会場はなのはなハウス（各8名）

- ① 7月15日（月祝） わが子は大丈夫！？依存の境界とネット障害のリアル
- ② 8月18日（日）高校進学/先輩ママに聞く！どうなの？通信制・定時制・ネットの学校
- ③ 9月22日（日）ピンチを乗り切る！制度の使い方、支援の受け方
- ④ 10月6日（日）お金を守る！ひとり親家庭のライフプランとマネーハック講座
- ⑤ 8月25日（日）夏休み職場体験ツアーin ファーストリテイリング（40人）

※「サンタのケーキ便」

コロナ禍のひとり親家庭支援をきっかけに、県内各地に店舗のある「果子乃季（あさひ製菓株）」の協力を得て、2020年12月から開催。2020年150家庭、2021年200個、2022年以降は300個を目指しクラウドファンディング。2024年は299個

5. 情報発信

- ① フェイスブック 平成28年4月開設
- ② ホームページ 平成29年1月開設、ブログ掲載
- ③ ニュースレター（年3回）令和6年春、夏・秋、令和7年新年
- ④ 令和6年度活動報告（作成予定）

6. 報道

（1）新聞

12月21日（土）読売新聞、山口新聞他「山口市こども食堂ネットワーク設立」

（2）テレビ

12月20日（金）YAB山口朝日放送、TYSテレビ山口他「市ネットワーク」

1月27日（月）TYSテレビ山口「JA山口県がこども食堂に新米を支援」

7. 普及啓発

(1) 地域円卓会議

2024 年度、さぽらんてと共同で「ひとり親家庭支援について」、計 3 回円卓会議を開催した。山口市、山口市教委、山口市社協、山口県こども家庭課。山口県母子父子福祉センター、当事者団体.style が参加、意見交換を実施。参加者約 40 人

(2) 山口こども応援ミーティング 2024

「こどもまんなかフォーラム～こどもの居場所づくり、私たちにできること」

全国こども食堂支援センター・むすびえ 湯浅誠理事長の子どもの居場所に関する講演、他にも SSW によるこどもたちの現状と課題に関する報告、こども食堂による居場所づくり事例紹介 2 カ所を行った。参加者 80 人

報告：「子どもの現状と課題」 SSW 弦田八重子

居場所事例紹介：「キートス」（下松市）、「ぶらさーる」（下関市）

日時：2024 年 10 月 6 日（日）13:30～16:00

場所：小郡地域交流センター

参加者：80 人（行政、社協等関係団体、こども食堂、一般）

(3) キッチンカー出動（こども食堂の情報発信）

2021 年 3 月、J T 助成金により購入したキッチンカーが各種イベント等への出店を通じ、こども食堂に対するイメージアップ、情報発信を行った。

8. 人材育成

社会的課題に取り組む「若き担い手（ヤングワーカー）」を育成するため、問題解決に必要な専門的知識を得るために、活動団体訪問や専門家による講演と意見交換を通じて、自ら考え、自ら行動する人材を育成する「あすはなカレッジ」を実施した。今年度は県委託事業として開催された居場所づくりの「地域検討会議」に参加した。

① 「子どもの居場所づくり」 地域検討会議

日時・場所：3 月 11 日（火）10:00～12:00 さぽらんて

講師：山口大学教育学部名誉教授 霜川正幸

参加：学生インターンなど 4 人

9. こども食堂・地域食堂プロジェクト

(1) こども食堂

2018 年度山口市のふるさと納税を活用したクラウドファンディング事業により、2018 年 12 月から山口市内 3 地域でこども食堂開設、運営している。

2020 年 3 月以降、コロナ禍で通常開催（会食）を見合わせていたが、2023 年 5 月のコロナ 5 類移行に伴い、会食を再開している。

地域	開催回数	会 場	利用者数	ボランティア	合計
大内	11 回	大内地域交流センター	913 人	152 人	1,065 人
小郡	12 回	小郡ふれあいセンター	2,012 人	316 人	2,328 人
吉敷	10 回	吉敷地域交流センター	1,500 人	315 人	1,815 人
合計	33 回		4,425 人	783 人	5,208 人

※N T T 西日本山口支店と共に「ソフトテニス教室」

2024 年 10 月 26 日 維新記念公園テニス場（参加者 25 人）

※u p r(株)(宇部市)から「レノファ山口」観戦チケット400枚寄贈(2024年11月)

○小郡中・宮野中「学校朝ごはん」

「朝食を食べてこない」生徒に、ボランティアによる「学校朝ごはん」は小郡中校長の理解と協力により、2019年6月から毎週水曜に実施したが、新型コロナ以降、感染状況により、実施と再開を繰り返し、2021年1月から休止したが、2023年5月の5類移行に伴い、2023年7月から再開、2024年度は通年開催。

学校名	回数	参加生徒数	ボランティア	合計	備考
小郡中	40回	641人	160人	801人	調理
宮野中	41回	1,327人	95人	1,422人	パン、果物
合計	81回	1,968人	255人	2,223人	

○松風館高校での食事提供

2022年4月開校した県立松風館高校は定時性・通信制高校で、様々な事情のある生徒もいることから、開校以前から食事提供や居場所カフェについて提案し、開校後は文化祭や校外活動でイベント的に年間3~4回食事を提供した。2023年5月コロナ5類移行に伴い、本格的に昼食提供を提案し、7月から毎週火曜に山口県パン工業協同組合の御協力により、当初は1回300個、現在は200個のパンを無料配布。

2024年度は4月から12月まで、のべ29回、パン5,800個(約5,000人)配布

(2) 新型コロナ緊急支援(詳細は別途記載)

コロナ禍は収束したものの、物価高により、困窮するひとり親家庭など子育て家庭に食品の詰合せ等を配布した(フードパントリー(2,435件))。「みんなにエール!弁当(のべ5,722食)」「ごちそうさまプロジェクト(801家庭)」も継続実施した。

10. 地域こどもの居場所づくり体制強化事業(山口県委託事業)

2019年度から5年間、続いた「山口県こども食堂サポート事業」は、こども家庭庁の発足やこどもの居場所づくりの推進などを受けて、山口県においても、こども食堂を含むこどもの居場所づくりに取り組むこととし、特に2024年度から3年間で市町が主体的にこどもたちの居場所づくりに取り組むようになることを目指して、地域の行政や社協、こども食堂などを対象に研修などを通じて、体制強化を図ることとなった。また、地域コーディネーターなどの体制は引き続き、維持し、調整等を行う。

なお、こども食堂は年度当初177カ所であったが、年度末は200カ所を超えている。

- ① 地域検討会議: 当初予定どおり、3か所で開催、合計40人が参加した。
- ② 専門セミナー: 4回開催予定であったが、2カ所(山口市、下関市)で実施した。
- ③ こども食堂・こどもの居場所推進会議: これまでの委員に、学識経験者や事業運営者を加えて委員を増員し、情報共有や意見交換を行った(3月10日県庁で開催)。
- ④ 居場所づくりセミナー

日時・場所: 8月10日(土)総合保健会館

講師: 福岡県立花高校 校長 斎藤眞人さん

参加者: 200人

- ⑤ 子どもの居場所サポートブック

学識経験者や居場所運営者への取材や、こども若者のインタビューなどにより、子どもの居場所づくりを目指すためのサポートブックを作成(1,000部)

11. 山口県こども食堂・子どもの居場所ネットワーク（事務局）

（1）県内企業・団体等からの食料品等寄付の受入

J A山口県（2024年1月26日「こども食堂包括応援連携協定」調印）から、夏以降のお米の需給の逼迫にも拘らず、今年度も県内こども食堂にお米3トンを寄付いただいた（贈呈式2025年1月28日）。山口県パン工業協同組合から今年度もパンの御寄付をいただき、県内のこども食堂で配布した。また、イズミ（むすびえ経由）、生命保険協会山口県協会から寄付金を受領した。

（2）スキルアップ事業（県子ども子育て応援ファンド助成金「こども食堂特別枠」）

5月14日（木）食品衛生講習会（講師：山口県生活衛生課）28人

7月5日（金）ファンドレイジング講座 22名

講師：日本ファンドレイジング協会中国チャプター

7月7日（日）スキルアップ研修会 周南市 90名

講師：（特非）食べて語ろう会代表 中本忠子さん

9月8日（日）エシカル講座 山口市 12名

講師：山口県立大学 今村主税さん

1月26日（日）防災食講座 光市 21名

講師：（一社）レベルフリー ※防災研修と同7月

（3）むすびえ交流機会創出事業

①9月17日（火）こども食堂研修会（岩国市）

広島こども食堂支援センター 理事長 越智誠輝さん 18名

②10月3日（木）おもちゃライブラリー運営講座（宇部市）8名

③2月16日（日）サザンセトこども食堂ネットワーク発足式

④3月14日（金）岩国市・和木町こどもの居場所ネットワーク発足式

（4）山口市補助事業（山口市こども食堂ネットワーク）

12月20日（金）発足式、記念講演会（山口県児童センター）50人

3月15日（土）ネットワーク発足記念イベント（同）70人

（5）居場所のインパクト可視化を通じた地域活性化事業

（全国こども食堂支援センター・むすびえ：休眠預金活用事業）

こども食堂と地域の居場所ワークショップ（全3回）16か所参加

（6）子育て家庭への食支援事業

（全国こども食堂支援センター・むすびえ「こども食堂基金」、休眠預金活用事業
2021通常枠 助成金活用）

①県下一斉フードパントリー

夏休みの食品支援を目的に、21カ所1,160世帯に食品を配付。

②冬のパントリー

希望するこども食堂35か所を通じ、900世帯に食品を配付。

（7）こども食堂設備購入・改修費用助成事業 ※むすびえこども食堂基金事業

設備購入4カ所、改修費用2カ所に助成した（125万円）

(8) 安心安全助成 ※休眠預金事業

食品衛生責任者養成講習会受講料、保険料を助成 50 件

(9) こども食堂・農業支援事業 (BellAgri(株)からの寄付金)

こども食堂が JA直売所等での購入代金を助成。2022 年度整備した kintone による申請システムにより、こども食堂の申請手続きを簡素化、利用促進した。

(10) 県ネットワークのホームページ開設

県ネットワークや子ども食堂に関する情報発信とともに、企業や個人等からの寄付(資金や物資)、ボランティア受入等の受け皿となるホームページを開設している

(11) 県こども食堂マップの配付(休眠 2023)

夏休み前に、県内全小中学校に各地域のこども食堂マップ 12 万枚を配布した。

12. 新型コロナ→物価高騰対策

各種民間助成金等を利用し、主にひとり親家庭や学生に対する支援を行った。

(1) みんなにエール！弁当

コロナ禍で、収入減少など困窮するひとり親家庭を応援する「みんなにエール！弁当」は 2020 年 5 月山口市でスタートし、その後、他市でも実施し、萩市、美祢市、光市、下松市の 4 市では各市担当者や社協職員の協力を得て、継続実施した。山口市内がのべ 22 回 4286 食、4 市で 7 回 1,436 個、合計 29 回 5,722 食配布。

なお、弁当は県飲食業生活衛生同業組合の協力を得て、地元の料飲組合が紹介した飲食店等に注文した。

(2) ごちそうさまプロジェクト

ひとり親家庭の「食」支援として、「宅食(食料品の託送)」「食事券(地元料飲組合の協力)」「買物券(丸久)」「お米(県産新米を配達)」を直接、各家庭に届けることとし、丸久、県飲食業生活衛生同業組合、JA山口県の協力の下、実施した。

今年は 7 月、1 回にまとめて募集、申込のあった全 801 家庭に届けた。

(3) フードパントリー

2021 年から継続、コロナ禍に続き、物価高に苦しむ子育て家庭を支援するため、7 月、県内各地域のこども食堂と連携した「県下一斎フードパントリー」実施(21 カ所、1,160 家庭)、12 月「冬のパントリー」こども食堂 35 カ所が 900 家庭に配布。

山口市では、2021 年 11 月から継続して、毎月(6 カ月まで)、主にひとり親家庭約 30 家庭に定期パントリー実施(のべ 285 家庭)。事務所内は常設パントリー設置

(4) 学生パントリー

2022 年度からバイトや仕送り減少、物価高で困窮する大学生へのパントリーについて、昨年度に続き、山口大と山口県立大で実施。山口大は大学基金が共催(費用半分負担)し、本部・医学部・工学部でのべ 3 回実施(400 人)、県立大は 100 人に配布してきたが、2024 年度は資金不足のため、実施できなかった。

13. 子ども第三の居場所・萩拠点(3 年目)

(1) 事業概要

萩市の萩明倫学舎内に 2022 年 6 月開設した「日本財団子ども第三の居場所・萩拠点」はコミュニティカフェ、居場所づくり、学習支援、こども食堂を実施した。

・開所日: 2022 年 6 月 17 日(金)

- ・事業内容：
 - ・コミュニティカフェ（誰でも使えるカフェ、子どもの居場所）
 - ・シェアキャンパス（中高生との自由学習スペース）
 - ・小学生向け学習会 毎週土曜午前実施、昼食付き
 - ・中学生向け学習会 毎週水曜夕方実施、軽食付き
 - ・こども食堂（毎月1回実施、1回80食程度）
- ・運営体制：センター長（非常勤）、マネージャー、スタッフ、調理ボランティア
学習支援ボランティア（大学生など）
- ・支援体制：運営サポート委員会（行政、関係機関、団体等で構成。年4回程度）

(2) 利用実績：利用のべ人数4,999人（子ども3,856人、大人1,143人）18人/日

こども食堂 12回開催、のべ376食（143家庭）
学習会 92回開催、のべ716人
各種イベント：13回実施、のべ502人参加
※アイススケートバスツアー（2月16日）24人
ほっとパントリー（ひとり親家庭対象）2024年度内6回実施、のべ283家庭
運営サポート委員会（委員9人、3回開催）
大人の学習会（至誠館大学協力による関係者の勉強会）6回

14. 資金調達

(1) 各種助成金等申請

- ・福祉医療機構「令和6年度（補正予算）WAM助成」<3年目・採択>
- ・山口県共同募金会（赤い羽根テーマ募金：9期）<採択>
- ・日本財団子ども第三の居場所助成金（山口市大内拠点1年目建設運営）<採択>
- ・休眠預金活用事業2023通常枠（むすびえ）3年間<2年目 採択>
- ・中央共同募金会「居場所がなくなった」助成事業（居住支援）<採択>
- ・こども家庭庁「ひとり親家庭等食事支援事業」助成金<採択>キッズドアなど

(2) 子どもの未来応援企業（3社）

2016年（株）池田建設、サン・ロード（株）
2017年（株）TAMARU

(3) 募金箱（50ヶ所）

(4) 寄附付自動販売機（4台） ※協力：日本コカコーラ・ウエスト（株）
2016年 サン・ロード（株）、防長苑
2017年 マツダ防府工場、山口ザビエル記念聖堂

(5) クラウドファンディング

11～1月「サンタのケーキ便」目標額100万円 達成：44件、1,009千円

15. その他

(1) 中国四国 こども食堂地域ネットワーク団体研修会

2024年12月14日（土）岡山市

(2) むすびえ 全国交流会

2025年2月8日（土）東京都港区

(3) あすのば主催「こどもの貧困フォーラム in 中国」

2025年2月14日（金）・15日（土）岡山市